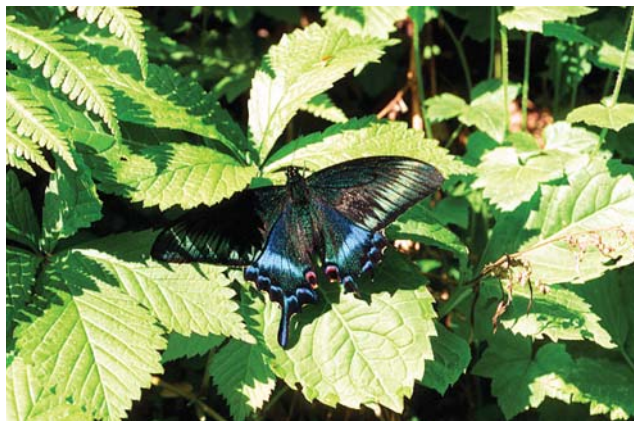


ミヤマカラスアゲハ

Papilio maackii

アゲハチョウ科



ミヤマカラスアゲハ

名前の由来

深山、すなわち山地にいるカラスアゲハの意味と思われ、カラスはその翅の色が黒いためだと思われる。アゲハの意味は止まっているときに翅を上へ上げていることからきているという。漢字名：深山鳥揚羽

特定種

該当なし。

形態的特徴

緑青の光沢のある黒い翅をしたやや大型のアゲハチョウ。後翅裏にも白帯がある。

オスメスに大きな違いはないが、オスは前翅の第1b、第2室に暗色の長毛からなるピロード状の性斑がある。

夏型は春型に比べ明らかに大きい。



ミヤマカラスアゲハ。春型、オス（左が表、右がウラ）

類似種と見分け方

カラスアゲハ。

カラスアゲハでは後翅裏に白帯がなく、前翅裏の白帯が上に広がる。



類似種のカラスアゲハ。
ウラ（春型、メス）



ミヤマカラスアゲハ。夏型、オス（左が表、右がウラ）

チョウ標本：吉原利之氏作成・所蔵

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卵期			■			■						
幼虫期			■	■		■						
蛹期	■			■			■	■	■	■	■	■
成虫期		■	■	■	■	■						

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地から山地の落葉樹林帯周辺。

分布：国外分布は、ロシア極東地域、朝鮮半島、中国大陸など。国内分布は、屋久島以北の日本全域。北海道内分布は、全域。

十勝地方では、平野部から山間部に広く分布し普通に見

られ、数は多い。林道の水溜りで吸水する群れをよく見かける。ピョウタンの滝のある札内川園地では6月にツツジが咲き、そこに本種が何百頭という数が集まることがある。

繁殖生態・寿命

年2回発生。春型は5月～7月中旬、夏型は7月下旬～9月に出現する。越冬態は蛹。

産卵は主として午後に行われ、溪流沿いの食樹の高い位置の葉に1卵つつ産みつける。

幼虫は葉の表に台座を造り、周囲の葉を食べ成長する。

終齢幼虫は緑色だが特に飼育下では黒色斑の発達する個体もあり、生息密度との関連が考えられる。

蛹化はその年に羽化するものは食樹上で、越冬するものは食樹を離れることが多いといわれる。寿命：不明。

他生物との関わり

*幼虫はキハダを食樹とする。

*成虫は春型は主にツツジ類を夏型はアザミ類を好んで吸蜜するが、その他にも多数の吸蜜植物が確認されている。

*天敵はミヤマカラスアゲハでは記録されていないが、近縁種のカラスアゲハではムラサキアゲハヒメバチ、ヒメキアシフシオナガヒメバチ、アゲハヒメバチの寄生が知られている。

*また捕食動物としてオオカメムシとスズメバチの観察例があり、同様の種に寄生または捕食されている可能性がある。

幼虫の食性（食樹）

キハダ。



キハダ。ミヤマカラスアゲハ幼虫の食樹

興味深い話

■河原などの湿ったところに水を飲みにくるのはオスばかりである。

■「蝶道」といって決まったコースを飛ぶ性質があることや、独立した山頂付近に集まり上空を旋回するなどの性質が知られている。

■あるチョウの会が行った日本の蝶の中で一番美しい蝶は何かという「美しい蝶のコンテスト」で女性に最も人

気の高かった蝶はミヤマカラスアゲハであったという。ちなみに男性に最も人気のあった蝶はオオムラサキであったという。

■十勝地方のアイヌ語では、カラスアゲハ類を「パスクルマレウレウ」といい、チョウ類一般を「マレウレウ」という。

配慮事項

食樹であるキハダなどの自生する林が必要。

参考文献

「原色蝶類検索図鑑」猪又敏男 北隆館 1990
「日本のチョウ」海野和男、青山潤三 小学館 1981
「原色昆虫大図鑑Ⅰ（蝶蛾編）」北隆館 1978
「十勝の蝶」大和与三追悼集 十勝蝶の会 1993
「埼玉蝶の世界」埼玉昆虫談話会編 埼玉新聞社 1984
「北海道の蝶」永盛拓行・永森俊行・坪内純・辻規男 北海道新聞社 1986

「原色日本蝶類生態図鑑（Ⅰ）」福田晴夫・浜栄一 他 保育社 1982
「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994
「エコロン自然シリーズ 蝶・蛾」白水隆・黒子浩 保育社 1996
「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 花

(外来種) 花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・森林) 鳥類